

令和6年度

調査研究成果報告書

**生涯学習における学習履歴の可視化・
デジタル化に関する調査研究**
— オープンバッジの活用可能性の検討を通して —

令和8年3月

広島県立生涯学習センター



生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化に関する調査研究 ー オープンバッジの活用可能性の検討を通して ー

【調査研究者】

広島県立生涯学習センター 社会教育主事 吉長 愛

【調査研究・助言者】

広島県立生涯学習センター 生涯学習推進マネージャー 山川 肖美
(広島修道大学 教授)

研究の要約

本報告書は、オープンバッジの活用を通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化について調査研究を行い、その成果と課題をまとめ、今後の取組について考察したものである。本調査研究は文部科学省が令和5年度に実施した「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」^①の継続事業であり、広島県教育委員会が調査研究の協力機関として実施したものである。令和5年度の調査研究^②の結果、学習履歴の可視化・デジタル化は、デジタルリテラシーの向上や学びのモチベーションの向上につながり、生涯学習分野において、学習履歴を可視化・デジタル化することは、学びを評価・活用していくツールとして有効であることが分かった。また、より多くの研修及び講座においてオープンバッジを発行し、受領者の意識の変容及びオープンバッジの活用可能性について調査・分析する必要があることが分かった。

そこで本調査研究では、広島県立生涯学習センター（以下「当センター」とする。）の複数の事業において、オープンバッジを発行し、学習履歴の可視化におけるオープンバッジの活用可能性を検討することとした。その結果、より多くの研修及び講座においてオープンバッジを発行することは、自身の学びやスキルを紹介したり生かしたりする等の活用の推進につながるということが分かった。また、受領後の活用のみならず、学びを手繰り寄せるツールとしての可能性及び自分自身を自ら証明するツールとして活用する可能性が示唆された。このことから、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化は受講者の学びに対する意識を変え、活用していくツールとして有効であるといえる。

目次

はじめに	2	3 広島県生涯学習研究実践交流会	8
I 事業の概要	3	IV 調査研究の結果	9
1 文部科学省委託事業概要	3	1 オープンバッジ発行数及び受領数	9
2 当センターにおける事業概要	3	2 オープンバッジ受領者の属性	9
II 調査研究の仮説及び検証の視点と方法	4	3 オープンバッジ受領者交流会	10
1 調査研究の仮説	4	4 広島県生涯学習研究実践交流会	10
2 検証の視点と方法	4	V 調査研究の分析と考察	11
III オープンバッジ導入事業の概要	7	VI 成果と課題	14
1 オープンバッジの発行対象事業	7	おわりに	14
2 オープンバッジ受領者交流会	8		

はじめに

第12期中央教育審議会生涯学習分科会¹⁾（令和6年）において、「デジタルは地理的な制約、年齢、性別、障害の有無等に関わらず、誰もがデジタル化の恩恵を享受することで豊かさを実感できる「誰一人取り残されない」社会の実現に大きく貢献することが期待されている。」「さらには、学習者が学修歴のデジタル化を通じ、自らの持つスキルを整理するとともに、生涯学習への意欲を喚起する取組も重要である。」と示されている。

文部科学省令和3年度「先導的・大学改革推進委託事業」「諸外国における学修履歴証明のデジタル化に向けた導入事例・導入方法に関する調査研究」において、「オープン・バッジは、世界中の教育資源をインターネット上でオープンに集積し、世界中の教師に開放するという2007年のケープタウン・オープン教育宣言（The Cape Town Open Education Declaration）²⁾の理念を実現するために開発されたオープン・テクノロジーである。」²⁾と述べられている。

オープンバッジ⁴⁾とは、国際標準規格に則って発行されるデジタル証明／認証で、スキルの可視化を実現するものである。取得したオープンバッジは、画像としてインターネット上で公開できる。また、メールへの署名添付やSNSでの共有などが可能である。オープンバッジはこれまでに、世界各国で多くの団体から発行されており、発行サービス提供組織からの報告によると2025年4月時点で約1億5千万個の発行が確認されている。

オープンバッジは、いつ、誰が、どのような基準を満たしオープンバッジを受け取ったかという情報がデジタルデータとして画像データに書き込まれており、発行されたオープンバッジは、受領者の「ウォレット」で保管される。

白石香織は、「オープンバッジは、学歴だけでなく一人の人材が持つ様々なスキルや経験を立体的に評価することができる。」「つまり、いままでは学位や資格といった看板を掲げられず埋もれていた人材にも光を当てることができ、多様な人材の育成・活用につなげることができる。」「将来的には、オープンバッジを集めることで、日本でも就職先・転職先や新しいキャリアが見つかる、あるいは国内外の大学に入学できるということが実現するかもしれない。」³⁾と述べ、オープンバッジの活用の可能性を示している。このことは、当センターが令和5年度に行った文部科学省の調査研究事業「デジタル技

術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」の成果と課題に通じるところである。

当センターは、令和5年度、文部科学省の調査研究事業「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」の協力機関として、当センターの事業のうち、五つの研修及び講座においてオープンバッジを発行し、学習履歴の可視化・デジタル化とその活用を行った。調査研究の対象となる研修及び講座について表1に示す。

表1 調査研究の対象となる研修及び講座

研修・講座名	バッジデザイン
令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育主事等研修】 社会教育経営編	
令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育主事等研修】 生涯学習支援編	
アウトリーチ型家庭教育支援研修	
「親の力」をまなびあう学習プログラム（以下「親プロ」とする。）ファシリテーター養成講座	
親プロファシリテーターフォローアップ講座	

調査研究の結果、令和5年5月から令和6年3月末までに当センターが発行したオープンバッジは、127個で受領者は98名であった（内訳は、4個受領が1名、3個受領が3名、2個受領が20名、1個受

領が74名)。五つの講座及び研修受講者のうち87.0%がオープンバッジの受領を希望し、受領率は95.3%と高い割合となった。受領者は、40歳代が一番多く、40歳代及び50歳代を合わせた人数は、6割を越えた。

1回目・2回目アンケート、受領者インタビュー、受領者交流会での意見、受領者交流会振り返りアンケート等の結果を分析した結果、オープンバッジの活用を通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化を行うことは「国民のデジタルリテラシーの向上」や「学びの可視化とモチベーションの向上」に有効であることが分かった。また、その効果を高めるためには、長期的な取組が必要であることが分かった。また、オープンバッジの認知度を高めること、受領者を増やすこと、活用方法や場面を増やすことが課題であり、令和6年度以降、複数の研修・講座においてオープンバッジを発行し、オープンバッジ活用セミナーや受領者交流会等を開催する等して、受領者の意識の変容を分析していく必要があった。そこで、令和6年度は、オープンバッジ導入事業と受領者の増加のもとで、学習履歴の可視化によるオープンバッジの活用可能性をさらに検証することとした。

なお、令和6年度は、令和5年度に引き続き、文部科学省の調査研究事業「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」の協力機関として、当センターの事業の研修及び講座において学習履歴の可視化・デジタル化とその活用を行うこととなり、多機能型LMS「Multiverse」^⑤を通じて、教育・研修・学習に関するデジタルソリューションサービスを提供している、株式会社ネットラーニング（文部科学省の委託企業）とともに実施した。

本調査研究は、その成果と課題をまとめたものである。

I 事業の概要

1 文部科学省委託事業概要

(1) 題目

「令和6年度デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」

(2) 業務期間

令和6年5月17日～令和7年3月24日まで

(3) 調査業務の目的

令和5年度に実施した同調査研究の結果も踏まえ

学習履歴のデジタル証明を活用しながら、社会教育主事及び社会教育士その他の社会教育人材のネットワークの具体化に資する検討、実践を行い、社会教育人材のネットワーク化に関する効果的な政策立案に資する提案を得ることを目的とする。報告書では、取得したアンケートの結果報告及び今後の活用に向けた提言を行う。

(4) 受託企業

株式会社ネットラーニング

(5) 協力機関

- ・都道府県：広島県立生涯学習センター（広島県教育委員会）
- ・教育機関：九州大学

(6) 当センターへの依頼内容

- デジタルバッジの発行とデジタルバッジ受領者同士のコミュニティ形成に関するモデル的実証
- ・社会教育分野における研修でのオープンバッジ発行
- ・オープンバッジ発行における意識調査アンケートの実施
- ・成果報告書作成における分析結果及び文面の確認

2 当センターにおける事業概要

本調査研究では、当センターの事業のうち、九つの研修及び講座の受講証明及び子供たちに関わるボランティア活動「ワクワク学び隊」を一定期間行った大学生の活動証明としてオープンバッジを発行した。

オープンバッジ発行対象研修の最初にオープンバッジの説明を行い、全員に1回目アンケートを実施した。オープンバッジ受領を希望する人には、個人情報取扱に係る同意書に署名をいただいた。

アンケート結果は集計し、株式会社ネットラーニングと共有することとした。

12月中旬、11月末までにオープンバッジを受領した人を対象に、2回目アンケートを実施し、2回目アンケートのみの集計及び1回目アンケートと2回目アンケートを突合した集計を行い分析した。

令和5年度にオープンバッジを受領した人を対象とした保有者アンケートを実施し、令和6年度の2回目アンケートの結果と比較し分析した。

令和5年度から令和6年度11月までにオープンバッジを受領した人を対象に、「オープンバッジ受領者交流会」を対面とオンラインのハイフレックスで開催した。

オープンバッジ受領者交流会の議事録を作成し、分析・考察を行った。また、振り返りアンケートの集計結果を分析・考察した。

広島県生涯学習研究実践交流会第3分科会において、オープンバッジ活用ワークショップ及び生涯学習の分野における取組発表を行い、グループトークで出た意見を活用可能性の視点で分析・考察を行う。また、振り返りアンケートの集計結果から分析・考察を行った。

II 調査研究の仮説及び検証の視点と方法

1 調査研究の仮説

複数の事業においてオープンバッジを発行することを通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化を行い、学びを通じた人と人とのつながり等のコミュニティの形成を図ることで、オープンバッジの活用可能性を広げることができるであろうということを仮説として置いた。

2 検証の視点と方法

(1) 検証の視点

検証の視点と方法について表2に示す。

表2 検証の視点と方法

視点	方法
1 受領者の意識の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目アンケート ・令和5年度の2回目アンケート及び令和6年度の保有者アンケートの突合結果 ・受領者交流会振り返りアンケート
2 オープンバッジの活用可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・2回目アンケート ・保有者アンケート ・広島県生涯学習研究実践交流会第3分科会の意見交流内容 ・広島県生涯学習研究実践交流会振り返りアンケート

(2) アンケート

本調査研究に係るデータを収集するため、オープンバッジの受領前アンケート（1回目アンケート）及び受領後アンケート（2回目アンケート）、受領して1年以上経過した人対象アンケート（保有者アンケート）を作成する。

1回目アンケート・2回目アンケート・保有者アンケートの項目を表3・次頁表4・6頁表5に示す。

表3 1回目アンケート項目

アンケート項目	チェック欄	選択肢等
1 年齢を選択してください。		20歳未満
		20歳代
		30歳代
		40歳代
		50歳代
		60歳代
		70歳以上
2 あなたの御職業を選択してください。		会社員
		パート・アルバイト
		公務員（首長部局勤務）
		公務員（教育委員会事務局勤務）
		公務員（公民館等勤務）
		教職員
		自営業・自由業
		地域おこし協力隊
		専業主婦・主夫
		NPO法人・団体職員
		大学生・大学院生
		高校生
		無職
	その他（記述）	
3 所属市町をお答えください。		
4 本講座の受講動機を選択してください。（複数回答可）		自身のスキルアップに活かせると感じたから
		業務で今すぐ必要な内容が含まれていたから
		講座内容に興味があったから
		同僚・上司に勧められたから
		オープンバッジが発行される講座だから
	その他（記述）	
5 研修・講座以前に「オープンバッジ」という単語を聞いたことがありますか。		はい
		いいえ
6 オープンバッジを受領した経験はありますか。		はい
		いいえ
7 No.6の設定で「はい」と回答された方は記入してください。どのようなオープンバッジを受領していますか。		（記述）

8 修了証として、どのような証明書を発行してほしいですか。		紙
		デジタル
		紙とデジタルの両方
9 その理由を教えてください。		(記述)
10 今回学ぶ講座の他に身に付けたいスキル、学びたい内容を教えてください。		(記述)
11 オープンバッジの活用方法を聞き、あなたはどのような活用ができそうですか。(複数回答可)		SNSでの共有
		メールでの共有・報告
		家族・友人や同僚など身近な人に話す
		就職・転職活動でのアピール
		自身の学習履歴の可視化
		同じバッジ受領者によるコミュニケーションの実施
		その他(記述)
12 社会教育士の称号を持っていますか。		はい
		いいえ
13 社会教育士の称号を持っていると答えた方は記入してください。社会教育士の称号を取ったことでどんなメリットがありましたか。		(記述)
14 現在社会教育士や社会教育主事講習の修了証明としてオープンバッジの発行を検討しています。取得したオープンバッジはURL形式で第三者へ共有ができ、自身が社会教育士であることのアピールに活用できます。オープンバッジを取得したいと思いますか。		はい
		いいえ
15 その理由を教えてください。		(記述)

表4 2回目アンケート項目

アンケート項目	チェック欄	選択肢等
1 オープンバッジについて 当センターの研修・講座以外で「オープンバッジ」という単語を(新聞やメディア等で)聞きましたか。		はい
		いいえ

2. オープンバッジ発行について オープンバッジの発行を受けて、他のオープンバッジを取得してみたいくなりましたか。(他のオープンバッジ発行対象講座を受けてみたいくなりましたか。)		はい
		いいえ
3. オープンバッジが発行される講座についてインターネット等でオープンバッジが発行される講座を調べたり、オープンバッジ発行対象の講座を受講したりしましたか。(複数回答可)		オープンバッジウォレットで検索した
		インターネットで調べた
		オープンバッジ発行対象講座を受講した
		特に何もしていない
		その他(記述)
4. No.3の設問で「オープンバッジ発行対象講座を受講した」と回答した方 どんな研修、または講座を受講しましたか。		(記述)
5. No.3の設問で「特に何もしていない」と回答した方 その理由を選択してください。(複数回答可)		他のオープンバッジに興味がなかった
		検索方法が分からなかった
		検索する時間がなかった
		検索できることを知らなかった
		バッジを受領した講座以外の研修や講座を、受講する予定がなかった
	その他(記述)	
6 オープンバッジの受領に関して オープンバッジを受領して、どのように感じましたか。 例) 学習へのモチベーションが向上した、別のバッジが欲しくなった		(記述)
7 オープンバッジの活用について 実際にオープンバッジをどのように活用しましたか。(複数回答可)		SNSでの共有
		メールでの共有・報告
		家族・友人や同僚など身近な人に話す
		所属組織への報告・スキル証明(URL共有)
		就職・転職活動でのスキル証明(URL共有)
		自身の学習履歴の可視化
	オープンバッジ受領者	

		同士の交流会への参加
		特に活用していない
		その他（記述）
8 オープンバッジの今後 オープンバッジは今後、御自身にとって役立つと思いますか。		とてもそう思う
		そう思う
		どちらともいえない
		そう思わない
		まったくそう思わない
9 理由 その理由を教えてください。		（記述）
10 オープンバッジの取得について オープンバッジの取得を他の人に勧めたいと思いますか。（11段階でお答えください。）		0
		1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
	10	
11 理由 その点数を付けた理由を教えてください。		（記述）
12 オープンバッジの展開 今後、オープンバッジが日本中で活用されることが予想されます。オープンバッジを保有することで、将来的に社会的な評価や価値を得たいと思いますか。		とてもそう思う
		そう思う
		どちらともいえない
		そう思わない
		まったくそう思わない
13 理由 その理由を教えてください。		（記述）
14 証明書について 今後受講する様々な研修・講座の修了証として、どのような媒体で証明書を発行してほしいですか。		紙
		デジタル
		紙とデジタルの両方
15 理由 その理由を教えてください。		（記述）
16 今後の取組について オープンバッジの受領者同士でコミュニケーションを実施できるコミュニティづくりを検討しています。仮に自身の情報を登録し交流可能なWeb		自身の名前
		自身の所属団体名
		連絡先（メールアドレス）
		連絡先（電話番号）
		自身の経歴

サイトがあり、あらゆる社会教育人材がその情報を閲覧できる機能があった場合、どのような情報を登録したいですか。（複数回答可）		自身の資格
		自身の事業経験（携わったプロジェクト等）
		その他（記述）

表5 保有者アンケート項目

アンケート項目	チェック欄	選択肢等
1 オープンバッジが発行される講座についてインターネット等でオープンバッジが発行される講座を調べたり、オープンバッジ発行対象の講座を受講したりしましたか。（複数回答可）		オープンバッジウォレットで検索した
		インターネットで調べた
		オープンバッジ発行対象講座を受講した
		特に何もしていない
		その他（記述）
2 No.1の設問で「オープンバッジ発行対象講座を受講した」と回答した方 どんな研修、または講座を受講しましたか。		（記述）
		他のオープンバッジに興味がなかった
		検索方法が分からなかった
		検索する時間がなかった
		検索できることを知らなかった
3 No.1の設問で「特に何もしていない」と回答した方 その理由を選択してください。（複数回答可）		バッジを受領した講座以外の研修や講座を、受講する予定がなかった
		（記述）
		（記述）
		（記述）
		（記述）
4 オープンバッジの受領に関して オープンバッジを受領して、どのように感じましたか。 例）学習へのモチベーションが向上した、別のバッジが欲しくなった		SNSでの共有
		メールでの共有・報告
		家族・友人や同僚など身近な人に話す
		所属組織への報告・スキル証明（URL共有）
		就職・転職活動でのスキル証明（URL共有）
5 オープンバッジの活用について 実際にオープンバッジをどのように活用しましたか。（複数回答可）		自身の学習履歴の可視化
		オープンバッジ受領者
		（記述）
		（記述）
		（記述）

		同士の交流会への参加
		特に活用していない
		その他（記述）
6 オープンバッジの今後 オープンバッジが御自身の経験や学びを証明することで、今後の人生において重要なものになると思われますか。		とてもそう思う
		そう思う
		どちらともいえない
		そう思わない
		まったくそう思わない
7 理由 その理由を教えてください。		（記述）
8 オープンバッジの取得について オープンバッジの取得を他の人に勧めたいと思えますか。（11段階でお答えください。）		0
		1
		2
		3
		4
		5
		6
		7
		8
		9
		10
9 理由 その点数を付けた理由を教えてください。		（記述）
10 オープンバッジの展開 今後、オープンバッジが日本中で活用されることが予想されます。オープンバッジを保有することで、将来的に社会的な評価や価値を得たいと思えますか。		とてもそう思う
		そう思う
		どちらともいえない
		そう思わない
11 理由 その理由を教えてください。		まったくそう思わない
12 今後の研修について 今後どのような研修・講座を受けたいですか。		（記述）
13 今後のコミュニティづくりについて オープンバッジの受領者同士でコミュニケーションを実施できるコミュニティづくりを検討しています。交流の場に参加したいですか。		はい
		いいえ
14 No.13の設問で「はい」と回答した方 どのような交流の場があれば参加したいですか。		（記述）

例) 同じバッジ受領者 同士での集合・オンラインでの意見交流会、SNS上でのつながり		
---	--	--

Ⅲ オープンバッジ導入事業の概要

1 オープンバッジ発行対象事業

調査研究の対象となる研修及び講座について表6に示す。

表6 調査研究の対象となる研修及び講座

研修・講座名	オープンバッジのデザイン
令和6年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【基礎研修】	
令和6年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【学習プログラム研修】	
令和6年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育士・社会教育主事等研修】	
アウトリーチ型家庭教育支援研修	
「親の力」をまなびあう学習プログラム（以下「親プロ」とする。）ファシリテーター養成講座	
親プロファシリテーターフォローアップ講座	

親プロファシリテーターステップアップ研修	
地域学校協働活動コーディネーター養成講座	
第13回広島県生涯学習研究実践交流会	
ワクワク学び隊	

- ③興味がある研修を検索してみよう！
- ④オープンバッジを共有してみよう！

- トークテーマ
- ①自己紹介
- ②オープンバッジはどんなところでアピールできそうか
- ③どんな事業で発行すれば活用できるか
- ④オープンバッジを活用したコミュニティの形成はどうやって実現できるか
- ⑤今後どんなバッジが欲しいか

(1) 意見交流

オリエンテーションの後、対面・オンラインに分かれ、トークテーマに沿って意見交流を行う。最後に全体交流を行う。

(2) 意見交流の内容の分析

各グループの意見交流を録画し、文字起こしを行い、受領者同士がどのような意見を交流したのか分析する。

3 広島県生涯学習研究実践交流会

当センターと日本生涯教育学会（瀬戸内支部）の共催で開催した本交流会の全行程参加者のうち、希望者にオープンバッジを発行した。

- 日 時 令和7年3月8日（土）
13時から16時30分

- 対 象
ひとづくり・つながりづくり・地域づくりを支える社会教育人材のみなさん
- 場 所 広島県情報プラザ
- 方 法 対面・一部オンライン
- 全体テーマ
ひろしま発！つながり・つなぎ・ひろげよう！
～ひとづくり・つながりづくり・地域づくりの実現と社会教育人材の役割～
- 第3分科会テーマ
ひろしま発！つながり・つなぎ・ひろげよう！
デジタル技術を使った多様な生涯学習の学習履歴の活用！？
- 参加者（第3分科会のみ）
24名（広島市10名、呉市1名、尾道市1名、廿日市市3名、府中町1名、東京都5名、愛知県1名、岡山県1名、大分県1名）
- グループ分け
属性ごとに分けたグループでスタートし、2回席替えを行う。

2 オープンバッジ受領者交流会

株式会社ネットラーニングと合同で、オープンバッジ受領者交流会を開催した。

- ねらい
社会教育・生涯学習分野における学習意欲の向上及びオープンバッジ受領者同士のコミュニティ形成を図る。
- 日 時 令和6年11月16日（土）
14時10分から16時30分
- 対 象 令和5・6年度オープンバッジ受領者
- 方 法 対面・オンライン（Zoom）
- 会 場 広島県情報プラザ
- 参加者
8名（対面4名、オンライン3名、情報交換会から参加1名）
オブザーバー参加：文部科学省3名＜現地参加＞2名＜オンライン参加＞1名
- 内 容
オープンバッジ活用セミナー及び意見交流会
- 活用セミナー
- ①オープンバッジ活用方法の紹介
- ②バッジ受領者を検索してみよう！

○ トークテーマ

オープンバッジの可能性について

(1) 意見交流

オリエンテーションの後、トークテーマに沿って意見交流を行う。最後に全体交流を行う。

(2) 意見交流の内容の分析

各グループの意見交流を録音し、文字起こしを行う。参加者がどのような意見を交流したのか分析する。

IV 調査研究の結果

1 オープンバッジ発行数及び受領数

令和6年5月から令和7年3月末までに当センターが発行したオープンバッジは、327個で新規受領者は244名であった。表7は、オープンバッジ発行対象研修・講座の受領対象者数・オープンバッジ希望者数・希望率を示したものである。アウトリーチ型家庭教育支援研修は、昨年度と同じオープンバッジを発行したため、まだ受領していない人のみが受領対象者となる。

表7 オープンバッジ発行対象研修・講座におけるオープンバッジ希望者数・希望率 N=327

研修・講座名	受領対象者数(人)	希望者数(人)	希望率(%)
令和6年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【基礎研修】	82	36	43.9
令和6年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【学習プログラム研修】	28	27	96.4
令和6年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育士・社会教育主事等研修】	54	34	63.0
アウトリーチ型家庭教育支援研修	34	15	44.1
「親の力」をまなびあう学習プログラム（以下「親プロ」とする。）ファシリテーター養成講座	45	30	66.7
親プロファシリテーターフォローアップ講座	15	10	66.7
親プロファシリテーターステップアップ研修	35	13	37.1
地域学校協働活動コーディネ	86	75	87.2

ネーター養成講座			
第13回広島県生涯学習研究実践交流会	140	77	55.0
ワクワク学び隊	10	10	100
合計	529	327	61.8

2 オープンバッジ受領者の属性

1回目アンケートは、オープンバッジ発行対象研修及び講座の全行程参加者529名に配付、オープンバッジの受領を希望しない人を含め、回収数394、有効回答数394であった。1回目アンケートの結果から、オープンバッジ受領者の属性について、表8及び表9に示す。

表8 オープンバッジ新規受領者の年齢 n=244

年齢	人数(人)	比率(%)
20歳未満	6	2.46
20歳代	31	12.7
30歳代	37	15.16
40歳代	61	25.0
50歳代	72	29.51
60歳代	29	11.89
70歳以上	8	3.28

表8は、オープンバッジ新規受領者の年齢を示したものである。50歳代が一番多く、40歳代及び50歳代を合わせた人数は、オープンバッジ受領者の5割を越えていることが分かる。

表9 オープンバッジ新規受領者の所属市町 n=244

市町	人数(人)	分布率(%)
広島市	40	16.39
呉市	14	5.74
竹原市	3	1.23
三原市	5	2.05
尾道市	10	4.10
福山市	44	18.03
府中市	4	1.64
三次市	11	4.51
庄原市	1	0.41
大竹市	3	1.23
東広島市	30	12.30
廿日市市	13	5.33
安芸高田市	2	0.82
江田島市	1	0.41
府中町	21	8.61
海田町	3	1.23

熊野町	3	1.23
坂町	3	1.23
安芸太田町	1	0.41
北広島町	3	1.23
大崎上島町	1	0.41
世羅町	3	1.23
神石高原町	4	1.64
その他	21	8.61
合計	244	100.0

表9は、オープンバッジ新規受領者の所属市町を示したものである。令和5年度は広島県23市町中、16市町にオープンバッジ新規受領者が存在していたが、令和6年度は全ての市町に新規受領者が存在することが分かった。また、県外の受領者が21名で、そのうち一番多かったのは東京都で8名だった。

3 オープンバッジ受領者交流会

オンライン参加者と対面参加者の2グループに分かれて意見交流を実施。トークテーマ①自己紹介②オープンバッジはどんなところでアピールできそうか③どんな事業で発行すれば活用できるか④オープンバッジを活用したコミュニティの形成はどうやって実現できるかについて、受領者同士がどのような意見を交流したのか分析を行った。

トークテーマ④については、以下のような好意的な意見が見受けられた。

- ・改めてオープンバッジの役割とその可能性について学ぶことができた。
- ・オープンバッジ（点）をネットワーク化（線・面）していくことが重要だと再確認した。
- ・社会教育士のバッジが欲しい。
- ・オープンバッジという見える化された情報だけでなく、本人が取り組んでいる実践や保持している情報など、実際に会って会話を通じて知ることができたのは大きな収穫。オープンバッジウォレットは、社会教育に取り組む人たちにとって、つながりのきっかけになるシステムになることを期待している。
- ・同種のオープンバッジを持っている受領者を「受領者リスト」から確認することができる。リストに表示される氏名にリンクを設定し、個々人の公開ウォレットに遷移できると良いのではないかな。機能として実現が難しい場合は、プロフィール欄のアイコンに顔写真やアピールしたいことを設定できるためリストに表示される氏名の横にそれらを表示するなどの機能拡充を希望する。このような情報があれば

氏名のためのリストよりもコミュニティ形成に有意である。

以上、オープンバッジウォレットを活用したコミュニティの形成についての意見が多く出された。

4 広島県生涯学習研究実践交流会

オープンバッジの活用可能性について、各グループの意見交流を録音し、文字起こしを行った。受領者同士がどのような意見を交流したのかユーザーローカルA Iテキストマイニングによる分析⁶⁾をおこなった。スコア順の結果を図1、出現頻度順の結果を図2に示す。

スコア順では、「生涯学習」や「社会教育」に続いて「技能賞」や「ケアマネジャー」等が大きく現れた。「今オープンバッジを発行している事業以外にも発行を広げていってはどうかな」「「レコメンド機能」があれば、研修及び講座に対する受講意欲が高まり、活用の可能性も広がるのではないかな」等の意見が出された。



図1 スコア順の結果

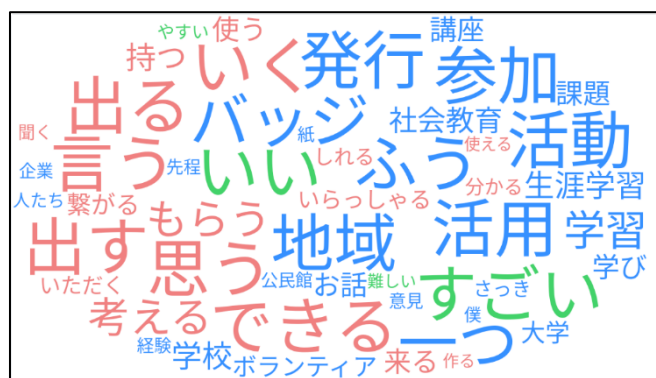


図2 出現頻度順の結果

出現頻度順では、「できる」「すごい」「いい」等が大きく現れた。「次にどのような学びをしたらよいかレコメンドされて、それが仕事に結びつくとよい」「オープンバッジって出口の保証だけで学習の

きっかけに、入口になる可能性がある。」等の意見が出された。

意見交流のまとめには、「学びの一覧からどれがよいかを選ぶのではなく、オープンバッジのタグから自分を中心として、必要なものを手繰り寄せることができるシステムである。」「これまで課題のように思っていたことが、実は少し違う視点で問い直してみると課題ではなく、学習者主体の手繰り寄せのシステムを作り込んでいくことができるということが分かってきた。」「自分を一目で説明する方法として、自分を出していくカルチャーを含めて、オープンバッジがもしかしたら、私達の学びの文化を変えるかもしれない」等の考えが出された⁷⁾。

V 調査研究の分析と考察

前掲の表2のとおり検証を行った。

10月末までのオープンバッジ受領者に2回目アンケートを実施。令和5年度のオープンバッジ受領者に保有者アンケートを実施。2回目アンケートは、175名中39名、保有者アンケートは、98名中25名から回答を得られた。

1 受領者の意識の変容について成果があったか

(1) 2回目アンケートの結果から

図3は、項番2「オープンバッジの発行について「オープンバッジの発行を受けて、他のオープンバッジを取得してみたくありませんか。」」についてそれぞれの回答の割合を示したものである。

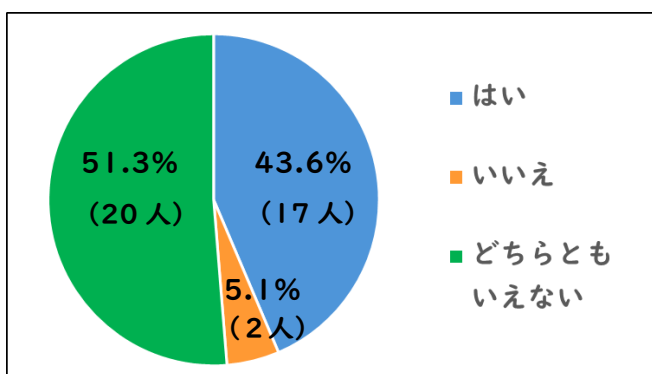


図3 オープンバッジの発行について n=39

「はい」と回答した人の割合は43.6%となり「いいえ」の5.1%を大きく上回った。「どちらともいえない」と回答した人の内、14名がオープンバッジ発行対象研修について「特に何もしていない」、4名が「インターネットで調べた」、1名が「オープンバッジ発行対象研修を受講した」、1名が「どの

講座が対象か分からない」と回答した。

この結果から、オープンバッジを複数の事業で発行することは、受領者の意識の変容について、一定の成果があったと考える。

次に、項番8「オープンバッジは今後、御自身にとって役立つと思いますか」及び項番10「オープンバッジの取得を他の人に勧めたいと思いますか」について、クロス集計した結果を図4に示す。

項番8の肯定的回答をピンク、項番10の肯定的回答（ここでは、11段階の「6」以上とする。）を水色、両方が重なる部分を紫色で表す。

項番8は、自身について問われており、肯定的回答は18名で46.1%、否定的回答は3名で7.7%となり、肯定的回答が否定的回答を大きく上回った。また、項番10は、他者について問われており、肯定的回答は20名で51.3%、否定的回答は19名で48.7%と差が無かった。二つのデータをクロス集計した結果両方肯定的回答は41.0%となった。

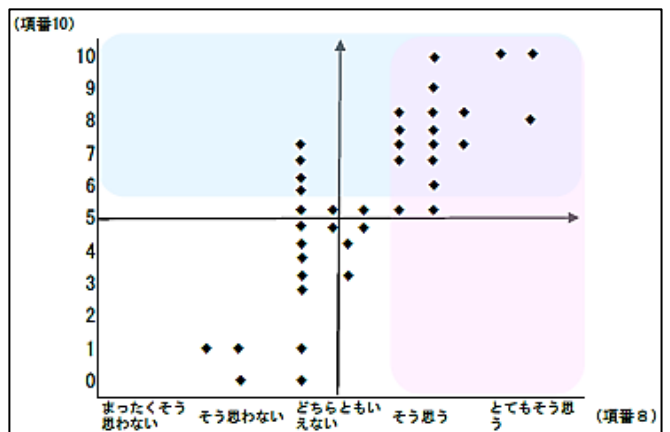


図4 クロス集計した結果 n=39

項番8で「とてもそう思う」と回答した人は3名で、「自分のもつスキルを可視化でき、ネットワークが広がると思う」「ボランティアを続けていくために、学習している証明になると思う」「他の組織の人との交流が可能になる」と回答している。

項番10で「10」と回答した人は3名で、「有効性を強く感じているから」「自分のスキルが可視化できて集める楽しみがあるから」「よくわからない団体のものではなく、信頼できるオープンバッジだから」と回答している。一方、「0」と回答した人は1名で、「特に必要性を感じていない」と回答している。また、「6」以上の回答をした人の約80%が「地域学校協働活動コーディネーター養成講座」の修了者であり、日頃から他者とのつながりや協働に

ついて意識のある人は、オープンバッジの受領についても自身にとって役立つと考えたのではないかと予想される。

これらのことから、4割以上の方がオープンバッジは、自身にも他者にも有用だと考えていることが分かり、研修及び講座の受講促進及び学びの意識づけや拡充等につながると考える。

(2) 令和5年度の2回目アンケート及び令和6年度の保有者アンケートの突合結果から

令和5年度の10月までにオープンバッジを受領した79名に実施した、2回目アンケートの回答者44名の内、17名から令和6年度の保有者アンケートの回答が得られた。

令和5年度2回目アンケート項番8及び項番10のクロス集計結果及び令和6年度保有者アンケート項番6及び項番8のクロス集計結果を突合した結果を図5に示す。2回目アンケートの結果を◆（内、変化の無かった回答を緑◆とする）、2回目アンケートより肯定的回答へ変容した回答を青◆及び青矢印、2回目より否定的回答へ変容した回答を赤◆及び赤矢印、自身にとっては否定的回答となったが、他者には肯定的回答になった回答を紫◆及び紫矢印で示す。

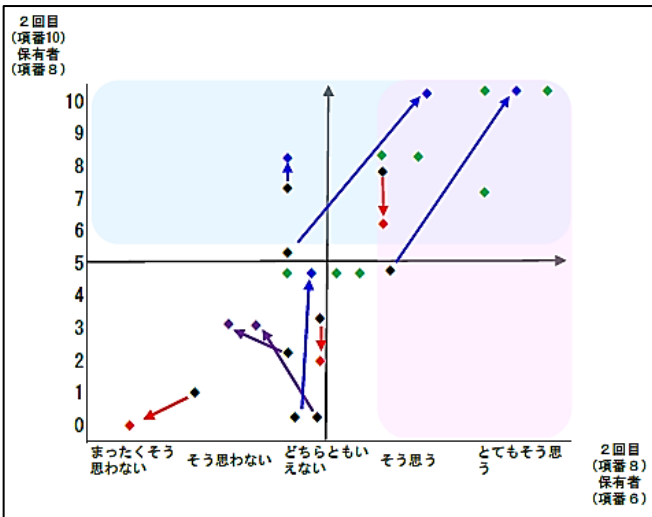


図5 令和5年度2回目アンケート項番8及び項番10及び令和6年度保有者アンケート項番6及び項番8のクロス集計を突合した結果 n=17

令和6年度保有者アンケートの結果、令和5年度2回目アンケートからより肯定的回答へ変容した人は4名で23.5%、否定的回答へ変容した人は3名で17.6%、自身にとっては否定的回答となったが、他者には肯定的回答になった人は2名で11.8%、変化

が無かった人は8名で47.1%となった。肯定的回答に変容した理由として、「5年後10年後にはオープンバッジの利用や活用が日常的なものとしてさらに身近になり、全国各地の方との交流ができ、人生を豊かにするツールになると思う」等の記述があり、否定的回答に変容した理由として、「理論上は有意義であると理解しているが、日常で有効活用出来る実感がない」等の記述があった。

また、自身にとっては否定的回答となったが、他者には肯定的回答になった人は、「学びに意欲のある方へはおすすめしたい」等の記述があり、自身にとっての利点は感じられないがオープンバッジに対しては肯定的な考えを持っていることが分かった。

これらのことから、受領者の意識は、オープンバッジの活用有用性を感じた人は肯定的に変化し、感じられなかった人が、否定的に変化したと考えられる。そのため、オープンバッジを受領したことのメリットが感じられる場が必要であると考え。

(3) 受領者交流会振り返りアンケートの結果から

オープンバッジ受領者交流会の振り返りアンケートから、「1 交流会に参加して」（複数回答可）の回答結果を表10に示す。

表10 「1 交流会に参加して」の結果（複数回答可）

	n = 6	
1 交流会に参加して	人	%
楽しかった	5	83.3
新しく知り合いになれた	3	50.0
新しい発見があった	5	83.3
新しくやってみようことができた	1	16.7
仕事（活動）へのヒントが得られた	3	50.0
明日もがんばろうという気持ちになった	2	33.3
もっといろいろな人と交流してみたい	0	0.0
特に何もなかった	0	0.0

「楽しかった」「新しい発見があった」と回答した人の割合が83.3%となった。続いて、「新しく知り合いになれた」「仕事（活動）へのヒントが得られた」が50.0%となった。

「2 新しいコミュニティについて」（記述）において、「参加者さんの分野が違って面白かった。これから受領人口がどんどん増えますように」「個々が取得しているオープンバッジ（点）をネットワーク化（線・面）していくこと（プラットフォーム）が重要だと再確認した」「社会教育士のバッ

ジが欲しい」等の回答があった。

これらの結果から、オープンバッジを複数の事業で発行することは、新規受領者を増やすことにつながり、受領者同士の交流等を行うことで、受領者の意識の変容について、一定の成果があったと考える。

2 オープンバッジの活用可能性を広げることができたか

(1) 2回目アンケートの結果から

項番7「オープンバッジの活用について」（複数回答可）の各項目の回答人数及び割合について、表11に示す。

表11 オープンバッジの活用について（複数回答可） n=39

活用内容	人	%
SNSでの共有	0	0.0
メールでの共有・報告	1	2.6
家族・友人や同僚など、身近な人に話す	9	23.1
所属組織への報告・スキル証明（URL共有）	2	5.1
就職・転職活動でのスキル証明（URL共有）	0	0.0
自身の学習履歴の可視化	9	23.1
オープンバッジ受領者同士の交流会への参加	1	2.6
特に活用していない	22	56.4
その他	1	2.6

一番多かったのは「特に何もしていない」と回答した22名で56.4%。続いて、「家族・友人や同僚など、身近な人に話す」「自身の学習履歴の可視化」がそれぞれ9名で23.1%となった。

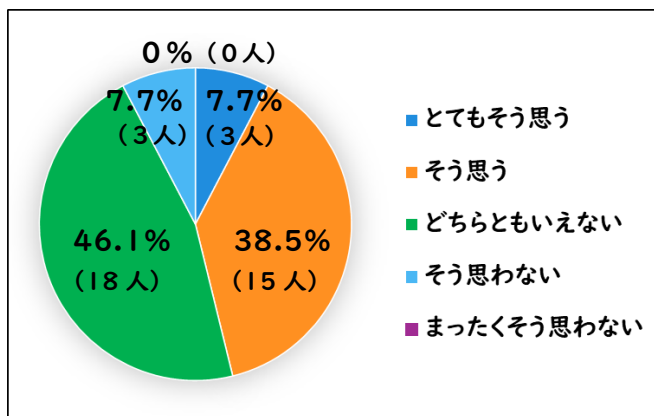


図6 オープンバッジの今後について n=39

続いて、項番8「「オープンバッジの今後について」オープンバッジは今後、御自身にとって役立つと思いますか。」について、それぞれの回答の割合を図6に示す。

肯定的な回答をした人は18名で46.1%、否定的な回答をした人は3名で7.7%となった。「どちらともいえない」と回答した人は18名で46.1%と一番多く、「特に見せることが必要な場面がない」「現時点で活用できていない」「現時点では認知度が低くアピールにならない」等と回答している。

これらのことから、オープンバッジを受領してあまり時間が経っていない人は、活用場面が少ないことが分かった。そのため、オープンバッジの認知度を高めることや、オープンバッジ受領者の所属先に社会教育人材の活用オープンバッジが役立つこと等を周知する必要があると考える。

(2) 保有者アンケートの結果から

項番6「「オープンバッジの今後について」オープンバッジは今後、御自身にとって役立つと思いますか。」について、それぞれの回答の割合を図7に示す。

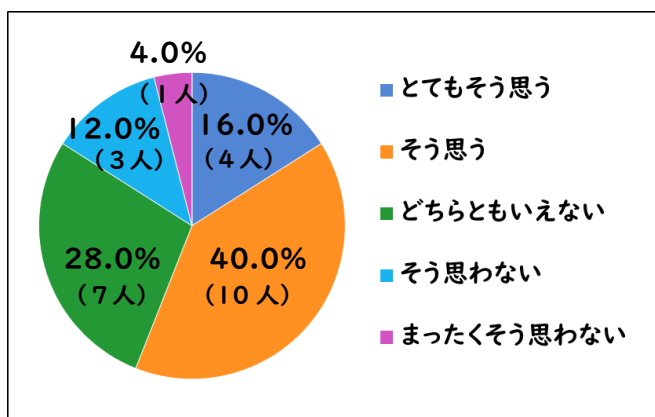


図7 オープンバッジの今後について n=25

肯定的な回答をした人は14名で56.0%、否定的な回答をした人は4名で16.0%、「どちらともいえない」と回答した人は7名で28.0%となった。2回目アンケートと比べ、肯定的回答の割合が高く「どちらともいえない」と回答した人の割合が低かった。

肯定的回答では、「人生の軌跡」「再就職する際になどに活用できる」「人生を豊かにするツールになる」等の記述があり、複数の事業においてオープンバッジを発行することは、オープンバッジの活用可能性を広げることについて、一定の成果があったと考える。

(3) 広島県生涯学習研究実践交流会第3分科会の意見交流内容から

ワールド・カフェを援用した意見交流において、「個人の学びの計画につながる」「レコメンド機能があれば、同じような研修を案内できる」「これまで参加した研修等の履歴が残り、自分の学びの振り返りができる」「不登校児の登校証明として、特定の場所に通うと登校したことにする証明として活用できそう」等の意見が出された。

また、明治学院大学教授坂口緑氏からは、「自分自身を自ら証明するツールとして活用する可能性」について、コーディネーターをしていただいた広島修道大学教授山川肖美氏からは、「受領後の活用のみならず学びを手繰り寄せるツールとしての可能性」について御示唆をいただいた。

(4) 広島県生涯学習研究実践交流会第3分科会振り返りアンケート結果（自由記述）から

活用可能性について、「オープンバッジを使えるようにしていくことが大切」「オープンバッジの広報や周知をもっとやった方がよい」「可能性は見たが、お金が…」等の意見が出された。

このことから、次年度以降、オープンバッジ発行対象研修及びオープンバッジの活用可能性についてホームページ等で広報し、オープンバッジの認知度を向上させ、活用場面を提案していくことが必要だと考える。

VI 成果と課題

1 調査研究の成果

複数の事業においてオープンバッジを発行することを通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化を行い、学びを通じた人と人とのつながり等のコミュニティの形成を図ることは、受領者の意識の肯定的変容に一定の効果があることが分かった。

また、オープンバッジの活用について、新たに二つの可能性があることが分かった。

一つ目は、学習者が主体となって、学びを手繰り寄せるシステムとしての可能性であり、もう一つは自分の履歴を自分で証明し、自分を一目で説明する方法として、このオープンバッジを活用し、自分を出していくカルチャーが広がる、私達の学びの文化を変える可能性である。

2 調査研究の課題

オープンバッジの認知度を高めること、オープンバッジ活用セミナーや受領者交流会等を開催する等して、有用感を伝えていくことが課題である。

次年度以降も、生涯学習分野で活躍する方々の学びやスキルを価値付け、更なる学びのモチベーションの向上を図り、社会教育人材の育成につなげていきたいと考える。

おわりに

令和5年度の調査研究において、受領者が98名とまだまだ少数であり、オープンバッジの発行を進めていくことによって、オープンバッジ受領者がデジタル化の恩恵を受けることができるようになることを考えていた。だが、受領者が増えることよりも、一人ひとりにユニークな学びの道筋を残し、創るツールとしての活用の可能性や、広島県に限らない世界で活用できる可能性が分かってきた。

これからも、オープンバッジの取組を継続し、新たに得た二つの可能性（学習者が主体的に学びを手繰り寄せる仕組みとしての可能性及び自分自身を自ら証明するツールとしての可能性）を検証しつつ、当センターの「学びの文化を変える」この取組を、全国に広げていきたい。

【注】

- (1) 令和5年度「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」については、文部科学省（令和6年）：「生涯学習・社会教育におけるデジタル化の「事始め」オープンバッジの導入と活用」https://www.mext.go.jp/content/20240401-mxt_syogai03-000034993_1.pdfに詳しい。
- (2) 令和5年度の調査研究については、吉長愛・山川肖美（2024）：「生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化に関する調査研究－オープンバッジの活用を通して－」に詳しい。
- (3) ケープタウン・オープン教育宣言（The Cape Town Open Education Declaration）については<https://www.capetowndeclaration.org>に詳しい。
- (4) オープンバッジについては、<https://www.netlearning.co.jp/blog/article/20231002.html>に詳しい。
- (5) Multiverseについては、<https://www.netlearning.co.jp/index.html>に詳しい。
- (6) ユーザーローカルAIテキストマイニングについては、<https://textmining.userlocal.jp/>に詳しい。
- (7) 意見交流のまとめについては、広島修道大学教授

山川肖美氏、明治学院大学教授坂口緑氏の発言による。

【引用文献】

- 1) 中央教育審議会（令和6年）：「第12期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」 pp. 10
- 2) 公益財団法人未来工学研究所（2022）：「文部科学省令和3年度「先導的・大学改革推進委託事業」 「諸外国における学修履歴のデジタル化に向けた導入事例・導入方法に関する調査研究」 pp. 9
- 3) 白石香織（2022）：「リスクリリング時代に広がるオープンバッジの活用～学びを仕事につなげ、円滑な労働移動へ～」 pp. 6

【参考文献】

- 山川肖美（1996）：『生涯学習におけるポートフォリオの機能－学習成果の評価機能を中心として－』教育学研究紀要（中国四国教育学会）
- 山川肖美（1996）：『生涯学習におけるポートフォリオ概念の再検討』学社融合の生涯学習（日本生涯学習学会年報）

令和6年度広島県立生涯学習センター調査研究成果報告書

**生涯学習における学習履歴の可視化・
デジタル化に関する調査研究**
— オープンバッジの活用可能性の検討を通して —

令和8年3月

ぱれっとひろしま
広島県立生涯学習センター

〒730-0052 広島市中区千田町三丁目 7-47
TEL 082-248-8848
FAX 082-248-8840
メール sgcshinkou@pref.hiroshima.lg.jp
H P <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/center/>
